

地域の仲間と力を合わせ、
高品質な作物の栽培に努めています。



農業に懸ける情熱



1 就農したきっかけ

実家が農業を営んでいましたが、幼いころは家業を手伝うことが少なく、高校3年生の冬休みまでは農家を継ぐ気はありませんでした。しかし、父親から「農業をやってみないか」と言われたことをきっかけに、農業の道に進むことになりました。突然のことでしたが、周囲に同世代の農家が多かったこともあり、農家を継ぐことに抵抗はありませんでした。



2 就農当時のこと



自分が想像していたよりも農家が多く、地域の知らない人との交流が新鮮だった記憶があります。当時の岩幌南収穫機械利用組合は40戸で構成されており、地域の方とたくさん関わることでできました。昔前はトラクターにキャンピングがついていなかったため、暑さ・寒さの厳しい中で作業をしなければならなかったなど、大変なことも多くありましたが、同世代の仲間も多くいたので楽しく続けることができました。

就農当時40戸で構成されていた岩幌南収穫機械利用組合は現在7戸まで減少してしまいました。少ない人数で広い面積を作業するのは大変ですが、力を合わせて作業を行っていきたいです。

3 仕事をする上で 気を付けていること

初期生育が良くなるように、細かく作物を確認し、状況に応じて作業に取り掛かるようにしています。

また、近年の不安定な天候にも対応することができるよう、常に心と体に余裕をもって作業することを心掛けています。そのためにも、農作業の省力化を進め、少しでも作業の負担を減らせるようにしていきたいと考えています。

4 目指す農家像

昨年、組合長を務めている岩幌南収穫機械利用組合が創立50周年を迎えました。組合員数が減少する中ですが、組合長として地域の仲間と組合員同士の力を結集し、時代のニーズに対応した高品質な作物を栽培していきたいです。そのためにも、より良い環境づくりと安全作業に努めたいです。

また、今年から新たに消防団の分団長も務めることになり、両方のまとめ役として、さまざまな意見を聞きながら、より良い地域にしていきたいです。



人物 memo

岩見沢市中幌向町
中道 秀和 さん(55歳)

約21haの農地に水稻や大豆、小麦を栽培。
高校3年生までは農家を継ぐ気はありませんでしたが、父親の一言をきっかけに、農業の道に進むことになりました。現在は岩幌南収穫機械利用組合の組合長として、農作物の収量・品質の向上に向けて取り組んでいます。